

芸術文化がある日常

「芸術文化」というと、つい構えてしまいがちですが、喫茶店に作品が展示されていたり、街角や公園に彫刻が置かれていたり、芸術作品や文化活動にふれる機会は日常生活の中にあふれています。さまざまな活動とともに、市が考える芸術文化について紹介します。

【問】文化国際室 ☎626-7524

表紙写真協力：愛宕火防太鼓、藤井淳子ダンススタジオ、パンフィック・プラス・オルケスタ、盛岡杉生園、もりげき王2019の皆さん

私はこれを楽しんでいます——

活動内容は人それぞれ。すでに芸術文化を楽しんでいる人を紹介します。



【作品名】舟っこ流し（8月17日撮影）

77歳にして、本格的にカメラを学び始めました。65歳の定年を機に、趣味として始めていましたが、フォトサークルの展示会で私の作品を見た今の師匠から「あなたは少し学べば、もっと伸びる」と言われ、弟子入り。それから3年、師匠たちと一緒に県内の祭りなどを撮影しているうちに、盛岡芸術祭美術展の写真部門で市長賞を受賞するまでに。「学び」は、何歳からでもできますね。年齢を重ね、体力的に厳しいと感じることもありますが、常にカメラを持ち歩き、シャッターチャンスがあると思わずカメラを構えてしまいます。カメラを始めたいと思っている人は、まずは自分の身近なものにシャッターを切ることから始めてみては？

photo



写真家歴3年
（趣味歴15年）

古谷広太郎さん（80歳）
中央通

illustration



イラスト歴
14年

大崎留乃さん（27歳）
桜台

絵を描くのが好きで、中学からはオリジナルでイラストを描き始めました。夢は漫画家になることでしたが、岩手大でデザインを勉強したこともあり、今はウェブデザイナーとして働き、イラストは趣味として続けています。描いた作品はインターネット上で公開。そこで知り合った絵描き友達と交流するのが楽しいです。友達の誕生日にプレゼントしたりもします。盛岡は、アマチュア作品を飾っているギャラリーや喫茶店が多いので、よく足を運んで、刺激をもらっています。イラストに興味がある人は、上手い下手を気にせず、自分の好きなものを描きたいものを楽しんで描くことが大切だと思います。



【作品名】cosmos（左）とafterschool



第48回盛岡芸術祭にて

合唱サークルの山岸グリーンコールは昭和45年に結成しました。当時の山岸小の校長が音楽の先生で、PTA活動の合唱を指導してくれたことがきっかけでした。合唱の楽しいところは、楽譜を見て「音をとるのが難しいな」と思っても、指揮や伴奏に合わせて皆で歌っているうちに、音楽が出来上がっていくところ。今は、定期コンサートや介護施設の慰問に向けて練習中です。市内には合唱グループがたくさんありますし、私たちも地域や年齢問わず歓迎していますので、気軽に参加してみませんか。練習しているうちに、どんどん好きな歌が増えますよ。*山岸グリーンコールは、来年3月までは、おおむね毎週火曜日に内丸教会（中央通一）で活動中

chorus



合唱歴
49年

山岸グリーンコール
長岡菊子さん（80歳）
浅岸

普段の生活の中にも芸術文化は溶け込んでいます



自家焙煎コーヒー屋 クラムボン
（店主：高橋真菜さん（35歳））

絵画や写真などさまざまな作品を2週間ごとに入れ替えて展示しています。取材時は、詩を展示。
【Data】住所：紺屋町5-33 ☎651-7207
営業時間：10時～19時※祝日は18時まで
定休日：日曜日

展示する作品によって、店の雰囲気が変わります。次はどんな作品が持ち込まれるか私も楽しみにしています



街角にも
材木町にある宮沢賢治像



公園にも
盛岡城跡公園（内丸）にある石川啄木の歌碑

気が付けば、身近に——

盛岡は、城下町として400年の歴史があり、古くから、茶の湯や生け花などの生活文化が根付いていました。また、各地域では、さんさ踊りや神楽などの民俗芸能が保存継承され、今に息づいています。近年では、市民の力により、市内の至る所に文学碑や彫刻作品などが建てられました。こうした先人たちの努力により、何気ない風景や暮らしの中に芸術文化が溶け込み、気が付けば、周りには芸術文化を楽しむ機会が街中にあふれています。これは誇るべき地域資源です。

このような風土の中、石川啄木や宮沢賢治、山口青邨、橋本八百二、深沢紅子など多くの文化人や芸術家が作品を生み出してきました。芸術文化は、私たちに喜びや心の潤い、安らぎをもたらすと同時に、創造性を育み、人生を豊かにしてくれます。芸術文化における多種多様な表現は、個性を認め合い、多様性を受け入れることができる心豊かな関係性の構築にもつながります。そして、新たな魅力を生み出し、地域の活性化にも大きな役割を果たしていく大切なものです——。

市の目指す姿は、「風土風土に包まれた、心豊かに芸術文化が生きるまち」。気軽に芸術を楽しむことができますか？



市長コラム 盛岡市長 谷藤 弘明

盛岡文士劇出演時に撮影

芸術文化は、美術や音楽だけでなく落語、アニメーション、将棋など多岐にわたります。楽しみ方もそれぞれ。市は、市民の皆さんが日常の中で気軽に芸術文化に触れることができる環境をこれからもつづけてい

ます。また、芸術文化の持つ創造性を観光や産業振興、国際交流などに生かし、その力を活用したまちづくりにも積極的に取り組んでいきます。さあ、皆さんも、芸術文化の世界へ飛び込んでみませんか。

PICK UP



芸術文化推進劇場

市民の皆さんが、芸術文化をより身近に感じ、生き生きと暮らせるようにするため「盛岡市芸術文化推進計画」を策定しました。計画期間は令和6年度まで。今以上に芸術文化活動に参加しやすくなる、これからの市の取り組みの一部を、「演劇が盛んなまち 盛岡」らしく演劇調で紹介し

芸術文化活動が盛んなまちに！

1 何か趣味がほしいけど、何をしたらいいのかわからないなあ

どんな人がどこでどんな活動をしているかも知りたいなあ

嵯峨瞳さん（27歳）

2 どうしたの？ 嵯峨さん

白坂さとさん（26歳）

3 そんな人のために、「芸術文化ポータルサイト」ができるよ！

サイトで予定していること↓

- 市内外の芸術文化活動団体などの活動紹介
- メンバー募集
- 活動ができる施設の検索
- 公演や展示会の情報が一目で分かるイベントカレンダー など…

令和3年度公開予定か！待ち遠しいなあ

ドゥッ

4 やっぱ活動したら、いろんな人に見てほしいから、大きな発表の場もほしい！

芸術文化活動をしている人の発表の場になる総合的な芸術祭を、令和4年度以降に開催するらしいよー

1つの会場で、ジャンルを超えて、さまざまな芸術文化に触れあえるみたい

子どもと一緒に楽しめると！

燃えてきた！

チャッ

5 活動もしやすくなるし、芸術祭もあって目標にもなりますね

まずはいろんな人の作品を見ることがかな！

もつと盛岡で芸術文化を楽しんじゃおう！

出演：第7代もりげき王※に輝いた嵯峨瞳さん（「片目で立体視」所属）と一緒に出演した白坂さとさん（「劇団ちりぢり」所属）

※年1回、盛岡劇場（松尾町）で行われる観客参加型の短編演劇コンテスト。嵯峨さんは昨年度と今年度の2連覇！9月6日に行われたもりげき王2019の様子は、取材日記からどうぞ

